

良き戦い  
2024年・7月・21日  
ポー・スターン・ブレイディ

状況は重要です。過去4年間、多くの人々が、私たちの政治情勢はかつてないほど悪く、「窮地に立たされたら窮地を脱するしかない」と言っているのを耳にしました。時代があまりにも危険なので、自分自身と権利を守るために何でもしなければならぬという理由で、親切や人格を捨てることを正当化する声も聞きました。たとえそれが、イエスの教えを捨てることを意味するとしてもです。

先週、私はこう言いました。「私たちは世界が経験したことのない最悪の文化的瞬間を生きている、という意見には私は実は同意しません。そのことについてはすぐにお話ししますが、問題は、たとえこれが生きていて神に従おうとする上で最も困難な状況であったとしても、私たちがこの世界で歩むように求められている道が変わるでしょうか？ 神の言葉の真実とイエスの道に対する私たちの責任が変わるでしょうか？」

今朝、パウロが新約聖書の教会に宛てた手紙を通して、神が私たちに何かを伝えたいとお考えだと思えます。私たちは「聖書の時代」をある意味貴重なものと見ています。私たちは欽定訳聖書の英語で聖書の時代について読み、ローブを着た男性や巻物に書かれた言葉を想像します。そうすると、私たちの高速で騒々しいハイテクなAIの世界が、はるかに進歩し、はるかに複雑で、はるかに危険に思えてきます。しかし、この進歩した考え、つまり私たちがとても苦勞しているという考えを聞くと、本当にイライラします。なぜなら、私たちは十字架にかけられた救世主に仕えているからです。最近、十字架刑を見ましたか？ 十字架刑の脅威を感じたことはありますか？ 彼の弟子たちは全員、拷問を受け、投獄または追放され、1人を除いて全員が残忍で裏切りの方法で殉教しました。それが彼らの状況でした。パウロは今朝、手紙を通して私たちに語りかけ、教会と世界の中で私たちがどのように現れるべきかについて話します。そして、彼が手紙を書いている背景を私たちに伝えることから始めます。:

“さて、主にある囚人であるわたしは、あなたがたに勧める。あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き、できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。からだは一つ、御霊も一つである。あなたがたが召されたのは、一つの望みを目ざして召されたのと同様である。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの内にいます、すべてのものの父なる神は一つである。しかし、キリストから賜わる賜物のはかりに従って、わたしたちひとりびとりに、恵みが与えられている。”

エペソ人への手紙 4:1-7 口語訳

パウロの場合、文脈は最初から明確に述べられています。主の囚人として。彼は周囲の文化が権利のための激しい戦いに巻き込まれていることを理解しています。ローマ帝国対その支配下にあるすべての人々。ユダヤ人対キリスト教徒。戦いは熾烈です。キリスト教徒は殺され

ています。彼らには事実上何の権利もありません。彼は何の法的理由もなく投獄されています。これが彼が自分の世界における神の働きを見る文脈であり、彼が私たちに手紙を書く文脈です。(パウロは私たちのような国について全く考えていなかったでしょう。全くです。ユダヤ人が自治権を持つ歴史的瞬間はまれです。彼は自由の国や勇者の故郷に住んでいるわけではありません。彼は世界が見た中で最も狂氣的で邪悪な独裁者の一人、ネロの気まぐれで生きています。)

ネロ = 西暦54-68年 16-30歳

「ネロの統治は、歴史上、暴政の典型として記録されている...」ギ・ド・ラ・ベドワイエール

2 エドワード・チャンプリンはこうも言っています。「どんなに説明しようとも、ローマの一般の人々がネロの行為を愛していたことを否定する古代の作家はいない。」3 言うまでもなく、キリスト教の観点から、そしてローマの民衆の一般的な墮落を考えると、これは実際にはあまり意味がありませんが、初期のキリスト教時代についての洞察を提供します。文脈！

彼の経歴は不名誉なものである。義理の兄弟が公然と彼を嘲笑したため、ネロと母のアグリピナは彼を殺害した。4年後、ネロは母を夕食に招き、殺害した。

紀元62年、彼は妻と義理の妹を殺害しました。64年には自分の町に火を放ち、町が彼に反旗を翻すと、彼はキリスト教徒のせいにし始めました。最も激しい迫害が始まったのはその時です。この時代、ローマ市民は誰でも、誰かをキリスト教徒として告発し、裁判官の前で検察官として行動することができました。キリスト教徒が信仰を放棄しなければ、彼らは殺されました。そして、彼らが殺された場合、検察官は彼らの財産を保持できました。死刑判決は法律違反とは関係なく、キリスト教徒という名前を名乗るだけで十分でした。イエスの信者にとって悲惨な時代でした。

パウロの宣教旅行は紀元47年に始まり、紀元57年まで続き、紀元60年から62年まで自宅軟禁状態にあり、最終的にはペテロ同様、ネロによって死刑を宣告されました。これがパウロの状況です。パウロは邪悪で混沌としたシステムの真っ只中に生きることがどのようなことかを理解しています。そして、タイムライン上の彼の位置から、彼は私たちにこう語っています。「神は、私たちがいるあらゆる状況において、私たちの崇拜と服従に値する存在であり、実際、彼はネロや当時の政治的腐敗や迫害について何も言及していません。もしそれが私だったら、そればかり話すでしょう！「これがどれほど不公平なことか信じられますか？」しかし、パウロが行政当局について言及するとき、彼はこう言います：

“そこで、まず第一に勧める。すべての人のために、王たちと上に立っているすべての人々のために、願いと、祈と、とりなしと、感謝とをささげなさい。それはわたしたちが、安らかで静かな一生を、真に信心深くまた謹厳に過ごすためである。”

テモテへの第一の手紙 2:1-2 口語訳:

それが彼の教えです。権威を持つすべての人のために祈りなさい。そうすれば、私たちは平和で静かな生活を送ることができます。この平和で静かな生活という考えは、今日の聖書のテキストの反響です。

パウロは、あなたの人生において「召しにふさわしい歩みをしなさい」と言っています。そして、それがどのようなものかを簡単に列挙していますが、それらの方法は、少なくとも私たちや他の人々に対して、まったく闘争的ではありません：

謙虚  
優しさ  
忍耐  
団結

完全な謙虚さと優しさ：今週、この一節についてよく考えました。完全な謙遜。なぜパウロは「完全な」という言葉を加えたのでしょうか。謙遜とは、持っているか持っていないかの問題ではないでしょうか。謙遜であるか、持っていないか。私にとっては、これが意味するところです。私は、ある分野では謙遜に、他の分野では傲慢に、批判的に歩んでいるかもしれません。自分の能力や才能については非常に謙遜を感じる一方で、他の人の失敗や意見については非常に傲慢で批判的であるかもしれません。パウロは意見を変えろとは言っていません。彼はこう言っています。「完全な謙遜と完全な優しさで歩みなさい。常に優しく、親切で、思いやり深く。」

互いに忍耐し合い、愛ゆえに互いの欠点を許し合いなさい。私は忍耐強くあるのが好きではありませんが、この教えは好きです。ポールは、私たちが傷つけたり、意見が合わない人を諦めないようなコミュニティを築くよう私たちに求めています。私たちは怒りながら立ち去るのではなく、忍耐強くあるのです。私は喧嘩をするとき、解決に焦り、意見の相違は1分で解決しないことがあります。通常、意見の相違は1分で解決しません。忍耐は好奇心を生みます。「なぜあなたはそう感じるのですか？どのようにしてこのような結論に至ったのですか？」このような種類の質問は、時間のかかる議論の中にあります。(結婚してすぐ、夕食から家に帰る途中、クリフと私は車の中で意見の相違がありました。私は心が閉ざされ、会話を終わらせて話すのをやめたいと思っていました。私たちが私道に着いたとき、彼は曲がらず、そのまま車を運転し続けて、「君が私と喧嘩するまで、私たちは運転し続けるつもりだ」と言いました。彼は喧嘩を望んでいたのではなく、団結を望んでいました。実際、団結がなければ、私たちはほとんど沈没してしまうことを彼は知っています。それで私たちは車を走らせながら話し、そしてまた車を走らせ話し、そしてついに同じページではなく、まったく新しいページにたどり着いたのです。その会話をする前には存在すら知らなかったページです。会話の前は私のやり方と彼のやり方があり、会話の後には私たちのやり方があり、また夫は私たちの関係をとっても大切に思っているので、不一致を周辺に押し込めてはおかないという理解もありました。彼は、不一致は押し込められたままにはならず、忍耐強く、親切に、謙虚に解決に向けて取り組む必要があることを理解していました。) 意見の相違があったときの私たちのルールは、1) 親切であること、2)

好奇心を持つこと、3) 邪魔をしないことです。これらは、忍耐強く互いに接しなさいというパウロの教えにすべて含まれていると私は信じています。

平和の絆による団結。

統一 = 1775 henótēs (heis、「一つ」から) - 一体性 (統一)、特に信者間の神が作り出した一体性 (一体性)、つまり主と自然の類似性を共有することから生まれる調和 (エペソ 4:3、13 でのみ使用)。

団結は、すべての意見を共有することから生まれるものではありません。(天国でも意見は異なると思いますか？私はそう願っています。私の友人のスティーブは、ロード オブ ザ リングを 27 時間も途切れることなく観ることができない天国を想像できませんし、私もロード オブ ザ リングを観ることを強制される天国を想像できません。) 私たちの違いが私たちをユニークにしています。ヨハネの黙示録には、あらゆる「部族、国家、言語」の天国が描かれています。天国で私たちが均質化され、ロボットのように考え、話し、行動する不定形の塊になるとは思いません。しかし、私たちの違いがいかに美しく、「正しいこと」がいかに重要でないか、そして団結して生きることがいかに素晴らしいことかを理解するからこそ、天国は天国であると思います。

これらの言葉は穏やかですが、騙されないでください。それはまた激しいものです。これらは私たちが呼ばれている言葉です。これは、キリストの体の中で戦うよう求められているものです。平和の絆による団結。私たちは団結の仕事をするよう求められていますが、それは難しいことです。なぜなら、私たちは団結を、私たちが参加する何かと見なすことが多いからです。私は、礼拝や教え、そしてコミュニティ内での人々の交流の仕方に賛同できる教会を見つけるつもりです。時には、私たちはメニューから夕食を選んだり、政策で政党を選んだりするように、教会を選ぶことがあります。それは悪いことではありませんが、長続きしません。私たちは常に問題にぶつかります。不具合です。私たちを不安にさせたり、怒らせたり、激怒させたりするような意見の相違です。私たちは愚かな間違いを犯し、言葉や決断や態度でお互いを傷つけます。私たちが最初に持つ団結は、自然に維持されることはありません。時には、私たちは袖をまくり上げて団結の仕事をしなければなりません。私たちは団結を創り出すよう求められています。そのために働き、そのために戦い、それが私たちの目の前で実現するのを見るために自分自身を捨てること。団結は良い戦いです：

“からだは一つ、御霊も一つである。あなたがたが召されたのは、一つの望みを目ざして召されたのと同様である。”

エペソ人への手紙 4:4 口語訳

一つの体と一つの精神、そして私たちは一つの輝かしい希望に召されています。一つ。一つ。一つ。私たちは、無数の異なる社会的、政治的背景から一つの神に仕えるよう召されています。私たちは、千の異なる世界観の真っ只中で一つの体となるよう召されています。神こそが、私たちが召されている希望なのです。

この活動によって私たちはより良くなります。私たちはよりイエスに似た者となり、私たちのコミュニティに信頼と強さが築かれます。

ここアメリカでは、2024年に私たちは争いの危機に直面しています。これはアメリカがこれまでに直面した中で最も論争の多い政治的出来事ではないと思いますが(ある副大統領が意見の相違による決闘で元財務長官を殺害した)、これは私がこれまで目にした中で最も論争の多い選挙です。そしてここ数年、この争いは教会の中心に根付いています。福音派の教会はかつて大統領候補や国の方向性についてより団結していました。あの頃はバックミラーに映る埃のようです。今では私たち全員が常に狂っているように感じます。では、強い意見を持ちながらも人生における神の召しにふさわしく歩むことを望む者として、私たちは今後4か月、4年、40年にどう立ち向かうのでしょうか。

謙虚さ  
優しさ  
忍耐  
団結

パウロは、そのリストの中で「本当にひどい選挙の年を除いて」例外を一切挙げていません。パウロは、私たちが自分の状況の喧騒に浸り、それが団結の良い戦いから免除されると主張する余地を与えません。

謙虚さ  
優しさ  
忍耐  
団結

私たちは一つになって、未来への唯一の希望であるイエスに目を向けます。イエスは私たちの唯一の希望です。そして、それは2024年以降、私たちが共にたどり着くページなのです。

聖体拝領  
返事

自分の心を注意深く見守ってください。

- どこに、あるいは誰に信頼を置いているか？

- 簡潔に記録してください。(怒りはすぐに手放してください)

出かけ続けてください。

もし私たちが北朝鮮に連れ去られ、置き去りにされたら、私たちはどのようにイエスに仕え、信仰を貫くでしょうか？ 私たちはここでも同じように生きています。私たちは一つの体、一つの精

神、そして未来への一つの希望に献身して生きています。私たちの希望は特定の結果に託されているわけではありません...私たちの希望は常にイエスにのみあります。